



男女共同参画コーナー

ひゅ〜ら

～ Human Love ～

鈴木りえこ氏の講演を聴いて【パート2】 ～超少子化で危機に立つ日本～

前月に引き続き、10月9日にエコーセンターで開催された、NPO ミレニアム・プロミス・ジャパン代表 鈴木りえこ氏の講演「超少子化・危機に立つ日本社会」の内容を紹介します。

【鈴木さんが少子化に目を向けたきっかけ】

10年ほど前、高齢化が社会問題として広く取り上げられている一方で、少子化があまり問題視されていないことについて「声を出す女性が少ないのが理由では」と考えていました。

留学先のイギリスでは自ら判断し意思表示をはっきりすることを求められましたが、日本では女性が自分で決めず、男性が決めてくれることを普通と思っているように感じました。「少子化問題も男性の視点で考えられているのではないだろうか？」と考えたことも、少子化に目を向けたきっかけの一つです。

【非婚化・少子化をくいとめるヒント】

日本の出生率が高かった戦後の時期は、身の周りの人が皆で子育てを支援しており、現在も地域でのつながりが強い沖縄では出生率が高いです。「他人に迷惑をかけられない、他人に迷惑をかけるな。」という考えを少し変えなくてはならない、と思います。

自分の子どもを大切に思うあまり、「子供に判断させない、子供が困らないよう何でも先回りしてお膳立てしてしまう親」が増えているのではないのでしょうか。これでは実生活に役立つ知識や体験が得られないため、コミュニケーションできない人間になってしまうのです。

【聴講者との質疑応答より】

質問／学校でも子どものコミュニケーション能力の低下を痛感しています。何をしたらいいのでしょうか？

回答／自分の子どもは悪くないと主張し、学校や子ども同士の問題に介入する親が増えています。子どもを守るためとのことですが、自分で問題解決する能力を備えないまま社会に出れば、挫折感から引きこもってしまう人間になります。子ども自身に、自分が価値のある存在なのだと思わせ、自信を持たせれば、コミュニケーション能力も自然と生まれるでしょう。

質問／男性が地域活動に参加しやすくするには？

回答／子育てや地域社会への参加も、男性にはモデルがなくて大変です。テーマを共同参画に関係するものと決めず、まずは参加しやすい催しなどの企画をしてみてはいかがでしょうか。



講演や市内の現状などを聴き、少子化を改善するには地道なことの積み重ねなのだなど、考えさせられました。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員

農大入学者への学資支援金制度

東京農業大学生物産業学部からのお知らせ
地元から農大に入学する皆さんへ

網走市との公私協力方式で開設された東京農業大学生物産業学部は、現在、学生の約90%が道外からの入学者で、網走市を含む網走支庁管内からの入学者は約5%にとどまっています。

少子化が進む中で、将来、地域のリーダーとなるべき地元出身学生を確保することは大きな課題で、大学も学生を増やすためのさまざまな取り組みを進めていますが、この取り組みをより一層進め、網走市内からの入学者はもとより管内からの入学者も増やそうと、網走市の協力により平成21年度から「学資支援金制度」を設けています。

学資支援金制度の概要

この制度は、大学入学時にかかる費用の一部を学資支援金として給付するもので、保護者の経済的な負担の軽減を図ることを目的としています。

学資支援金の対象者及び給付額等については、次のとおりです。

対象者／本年4月に農大生物産業学部への入学が決

定している方の保護者（親に代わる方を含む。）で、網走市に6ヵ月以上住民登録がある方

給付額／20万円

申込手続／学資支援金の給付を希望される方は、受験番号・氏名・出身高校を学生サービス課に申し出てください。学資支援金の給付者は、申し込みのあった方の中から学内で審査・選考し、決定します。

なお、学資支援金の給付後に入学辞退および入学取消があった場合は、学資支援金を返還していただきます。

連携協定締結校からの入学者

大学では、網走管内の一部の高校と、相互に連携を図るため協定を締結しています。これら連携校からの入学者もこの制度の対象となる場合がありますので、詳細はお問い合わせください。

※平成21年12月現在の連携校（網走市以外）

女満別高校・東藻琴高校・佐呂間高校・美幌農業高校
常呂高校

問合せ先／東京農業大学生物産業学部学生サービス課 ☎ 48-3813